

論文 A [論文 A/論文 B/研究ノート/研究資料等から選ぶ。ゴシック体，左揃え]  
空行 [11pt. 以下，空行はすべて 11pt)

タイトル [明朝体，15pt，中央揃え，行間 20pt]

—サブタイトル— [明朝体，11pt，中央揃え]

氏 名 (所属) [名字と名前は全角 1 字空き，明朝体，11pt，右揃え  
大学院生の場合は，○○大学大学院生のように記載して下さい。  
共著の場合は，原則として 1 名 1 行で書いて下さい。]

要旨 [ゴシック体，10pt]

原稿の種別が論文 A，論文 B，研究ノート，研究資料の場合は，要旨とキーワードが必要です。要旨の長さは日本語の場合，**200～400 字程度**を目安とします。図表は使わず文字だけで記述して下さい。段落は分けずに 1 段落で記述して下さい。字数には句読点および行頭の空白も含まれます。要旨・キーワードの書式はともに，明朝体・10 ポイント・行間 1 行・インデントは左右ともに 2 文字です。なお，投稿の本文が英文の場合は，この部分の要旨は英語で記述して下さい。**英文要旨の長さは 100～200 語程度**を目安とします。

キーワード：キーワード 1，キーワード 2，キーワード 3，キーワード 4，  
キーワード 5 [明朝体，10pt. キーワードは **3 個～10 個**]

## 1. 書式について [ゴシック体]

### 1.1 用紙に関する設定

- (1) 用紙の大きさは **A 4** (幅 210mm，高さ 297mm) です。
- (2) 余白は，**上 35mm，下 30mm，内側 30mm，外側 30mm** です (印刷の形式を「見開き」にすると，余白の「左」「右」の表示が「内側」「外側」に切り替わります)。
- (3) ヘッダーの位置は用紙の端から **20mm**，フッターの位置は用紙の端から **13mm** です。
- (4) (WORD の書式設定の場合) とじしろ **5mm**，印刷の形式は「**見開き**」にします。

### 1.2 フォントと句読点

- (1) 書体は原則として**日本語は明朝体，英数字は Century** です。Mac の場合は，日本語は，Osaka 等幅，英数字は Times を原則とします。
- (2) ポイントは，特に指定した箇所以外は**すべて 11 ポイント**です。空行も同様に 11 ポイントになります。
- (3) 本文及び和文要旨の句読点は，**ピリオド (.)，カンマ (,)** です。ただし，引用部分はこの限りではありません。

### 1.3 見出し

- (1)見出しは、「見出し番号」と「見出しの内容」で表し、ゴシック体です。
- (2)見出し番号が1桁の場合は、全角で「1. はじめに」のようにします(数字のあとのピリオドも全角です)。2桁以上の場合は、「1.2.3 ○○の場合」のように見出し番号をすべて半角にします(ピリオドも半角です)。
- (3)見出しの例(以下の例は説明の本文とまぎれないようにインデントしています)

1. 見出し
- 1.2 見出し
- 1.2.3 見出し
- 1.2.3.4 見出し

- (4)直後の見出し番号が1桁または2桁の場合は、本文とその見出し番号の行との間に空行を1行入れます。

(例)

#### 1.1 見出し

本文が入ります。次の見出しの数字が2桁なので、この項と次の見出しとの間に空行を1行入れます。

(ここに空行)

#### 1.2 見出し

本文が入ります。次の見出しの数字が3桁なので、この項と次の見出しとの間に空行は入れません。

##### 1.2.1 見出し

本文がはいります。次の見出しの数字が1桁なので、この項と次の見出しとの間に空行を1行入れます。

(ここに空行)

#### 2. 見出し

- (5)本文がなく、見出し番号だけが続く場合は、それらの見出し番号の行の間には空行を入れません。

(例)

1. 見出し
- 1.1 見出し
- 1.1.1 見出し

### 1.4 注記とページ番号, ヘッダー・フッター

- (1)注は原則として脚注<sup>1</sup>にして下さい。
- (2)脚注は10ポイントで記述して下さい。
- (3)ヘッダーは編集委員会で記入します。
- (4)ページ番号をフッターの中央に1から始まるように指定して下さい。
- (5)フッター部分の著作権表示は編集委員会で記入します。

---

<sup>1</sup> 脚注は10ポイントで記述して下さい。

## 1.5 文献参照の括弧

(1)本文及び脚注で文献を参照する場合、原則として、著者名(発行年: ページ)という形式にしてください。ページの情報は必要に応じて付けて下さい。

例 水谷(1980: 3)では、～  
～と指摘されている(宮島 2000: 105-107)。

(2)発行年を示す丸括弧は、日本語文脈では全角、英語文脈では半角にしてください。

例 田中(1985)によると、  
Chomsky(1965: 28)で示されているように～  
Halliday & Hasan(1976: 6) state that …

## 2. 図表について

(1)図表は本文領域からはみ出さないようにして下さい。

### 2.1 表の場合

(1)表は通し番号を振り、そのタイトルを表の上で中央揃えにします。書式は以下の例を参考にしてください。

(表の例)

表1: タイトル [明朝体, 10pt, 中央揃え]

	あ	い	う
A			
B			
C			
D			

### 2.2 図の場合

(1)図は通し番号を振り、そのタイトルを図の下で中央揃えにします。書式は以下の例を参考にしてください。

(2)図が見つらい場合は、別途解像度の高いものを用意して下さい。

(3)図は白黒で印刷することを想定して作成して下さい。

(図の例)

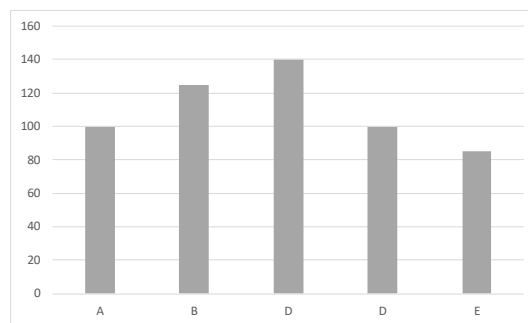


図1: タイトル [明朝体, 10pt, 中央揃え]

### 3. 参考文献・謝辞等

- (1)以下の書式を参考にして下さい。必要に応じて、資料・データ・関連 URL 等について、項目を分けて記述してもかまいません。
- (2)謝辞や付記は本文と参考文献との間に置いて下さい。

#### 文献 [ゴシック体, 11pt]

- (1)文献は、1 件ごとに改行して下さい。1 件が 2 行以上にわたる場合は 2 行目以降を 2 文字下げ。配列は名字の五十音順にして下さい (ただし、アルファベット表記のものを先にする)。
- (2)発行年を囲む括弧は日本語文献の場合は全角、欧文文献の場合は半角にして下さい。  
(文献の例)

Cramer, Irene M. (2005) The Parameters of the Altmann-Menzerath Law, *Journal of Quantitative Linguistics*, 12(1):41-52.

Sanada, Haruko. (2010) Distribution of motifs. In Japanese texts in Grzybek, Peter et als (eds.) *Text and Language*.183-194. Wien: Praesens Verlag.

荻野綱男 (2003) 「言語行動の調査法」荻野綱男 (編) 『朝倉日本語講座 9 言語行動』215-240. 朝倉書店.

柏野和佳子, 奥村学 (2012) 「和語や漢語のカタカナ表記—『現代日本語書き言葉均衡コーパス』における使用—」『計量国語学』28(4):153-161.

白土保ほか (2012) 「日本語の敬語誤用判定システム—判定ルールの妥当性の程度の数値化による柔軟な判定—」『計量国語学』28(1):1-20.

### 4. その他

#### 4.1 受付年月日

本文の最後に 1 行空けて受付年月日が入ります。これは編集委員会で記入します。

(例)

(○年○月○日受付) [右揃え。編集委員会で記入します.]

#### 4.2 英文要旨

本文とは別に英文要旨を付けて下さい (本文が英語の場合は日本語の要旨)。詳細は別ファイルを参照して下さい。

#### 4.3 投稿の際に送るもの

投稿の際は、投稿原稿・英文概要・投稿情報シートの 3 点を以下にお送り下さい。

[submission@math-ling.org](mailto:submission@math-ling.org)

『計量国語学』投稿書式 2017.02.16 版

変更履歴：

2015.04.28 投稿カテゴリー名変更に伴う改定及びヘッダー位置の改定.

2016.10.12 本文ポイントを 11 ポイントに変更. 余白を変更. 本文と見出し行との間の空白の変更. 著作権表示 (1 ページ目) を明記. 要旨・キーワードの行間を 1 行に変更.

2017.02.16 ヘッダー位置変更 (上から 20mm に). 1.5 「文献参照の括弧」を追加. 文献欄の括弧の全角半角の基準を記載. 図表を差し替え.

2017.03.26 見出しをゴシック体+ボールドからゴシック体のみに変更.